

2023 年学生卒業設計・制作 NCF 空間ディスプレイアワード 受賞作品講評

Aw2328

【作品名】有楽町アンダーグラウンド

【制作者名】稲葉 渉

【大学・学部】東洋大学 ライフデザイン学部人間環境デザイン学科

【結果】最優秀賞

【賞金額】40 万円

【講評】有楽町の高架下と地下鉄空間をアーティストの活動する文化空間として提案。地下構造のフレームを利用した創作スタジオや展示パフォーマンススペースやマーケットスペースをコンコースに設け、交通利用客が日常生活の中で、アートや文化に触れられる場を創り出している。閉塞的な通路にすぎない地下空間をフレキシブルに、開放的で、都市空間の活性化が期待できる、文化的なディスプレイ空間であると評価される。

Aw2302

【作品名】人と野生動物の共存という課題に向けた中山間地域の提案

【制作者名】橋本歩佳

【大学・学部】京都女子大学 家政学部生活造形学科野口研究室

【結果】優秀賞

【賞金額】25 万円

【講評】福井県の山間集落を事例に、野生動物との共存を目指すゾーニング計画を提案。里山、バッファー、人里、観察、順応化と動物との関わりของ深さに対応したエリアを設定し、各エリアでの動物との相互理解（研究、観察、順応化など）のための施設を具体的に提示している。人間活動の謙虚な反省と、野生生物への理解という理念に基づいた環境ディスプレイによる新鮮なランドデザインであり、フィールドミュージアムとしても評価できる。

Aw2203

【作品名】都市のアジュール

【制作者名】山岡敬汰

【大学・学部】大同大学 工学部建築学科船橋研究室

【結果】優秀賞

【賞金額】25万円

【講評】名古屋都市部の敷地再開発において、白山神社の跡地であることから、人々の心の拠り所として、特定の機能に縛られず、様々な活動を受け入れられる施設を提案。空間は、内部とも外部とも言えないもので、身体から自然に至る様々なスケールの混在によって人々の行動が生み出される。いわば「広場」を立体化したようなものであり、子どもの遊びを生み出す遊具のように、都市におけるある種のインターフェイスとして評価できる。

Aw2205

【作品名】しあわせな家族の解体方法

【制作者名】番屋愛香里

【大学・学部】大同大学工学部建築学科米澤隆研究室

【結果】優秀賞

【賞金額】25万円

【講評】自身の両親の離婚をきっかけに、ネットワーク型のホームを提案。「家族のしあわせ」を〈思い出の断片〉に分解し、その建築要素を離婚後のそれぞれの住居に組み込み、そのネットワークによって、一つの家で過ごした家族の「これから」を提示している。私的なテーマであることもあって、具体的な家族生活のシーンが描かれ、現代の多様な家族形態に対する住環境のあり方をリアルに提示した生活ディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2315

【作品名】 Self-cognition

【制作者名】HE ZHAO

【大学・学部】多摩美術大学 生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻

【結果】優秀賞

【賞金額】25 万円

【講評】様々な姿勢の複数の綿紐製人体の頭からねじれた帯が上に伸びる、「自己認識」とタイトルされたテキスタイル作品。人体と吊るされた帯の2つで、人と社会の関係を考えさせる力強い作品で、環境からの刺激を受けた脳が、自己認識によって絶え間なく成長してゆくことをイメージさせる。自己と環境との関係を独創的に表現しており、触れたら応答がありそうで、インタラクティブなディスプレイデザインとして評価できる。

Aw2320

【作品名】時代を繋ぐ 600m の「共」的建築 -帯状生活圈をもつ新湊の新たなインフラ計画-

【制作者名】棚田悠介

【大学・学部】東京電機大学 未来科学部建築学科建築設計研究室

【結果】奨励賞

【賞金額】15 万円

【講評】富山県新湊の衰退した漁港の海浜公園を、建築的に再構築して、海沿いに町の骨格となる 600m の帯状の生活圈を提案。町の成り立ちも踏まえたうえで、漁業関連施設に加えて、観光施設やバス停、子ども施設や公園など、街との繋がりを前提に多様な機能が構成され、海を積極的に活用した空間づくりの工夫が見られる。木造フレームの連続構造が視覚的シンボルともなり、海と街を繋ぐディスプレイ空間として評価できる。

Aw2321

【作品名】都市の骨核

【制作者名】太古尚稀

【大学・学部】東京電機大学 未来科学部建築学科建築設計研究室

【結果】奨励賞

【賞金額】15万円

【講評】千葉県銚子市を事例に、DX時代のフレキシブルな庁舎の提案。DX化によって、行政と市民の直接的接触の減少が危惧されるなかで、市庁舎全体を覆うシェルターで覆い、上層階には行政機能を配し、地上階には、可変性の高い公共施設や市民活動空間を配置し、行政と市民の結びつきと市民の自由な活動を生み出そうしており、魅力的なコミュニティ空間の可能性を感じさせ、コミュニティ機能のディスプレイ空間として評価できる。

Aw2327

【作品名】流動する余薫

【制作者名】真塩凌弥

【大学・学部】東京電機大学 未来科学部建築学科建築設計研究室

【結果】奨励賞

【賞金額】15万円

【講評】高円寺の都市計画道路整備に対し、「高円寺らしさ」の「器としての建築」を提案。既存の建築やファサードばかりでなく、雑多な看板や庇や家具・什器類、そして人々の行為そのものまでを「風景的マテリアル」として、それを再開発後の高層化された建築フレームの中に再構築し、居場所や思い出を継承する。都市計画が都市の記憶の破壊ともなりがちであることに対して、住民の視点に立った都市の記憶のディスプレイ空間として評価できる。

Aw2337

【作品名】snapshot

【制作者名】藤原匠吾

【大学・学部】多摩美術大学 環境デザイン学科

【結果】奨励賞

【賞金額】15 万円

【講評】海外で撮影した街の様々な人々の等身大写真を、CMYKの4レイヤーに分解し、それらを重ねて再構成した写真作品。透明シートなので、背面からも認識でき、観覧者の移動により見え方が異なり、また撮影した季節や時刻によって色のバランスは異なり、季節や時間の移ろいを認識することもできる。写真のアナログに分解によって、ある種の情報をわかりやすく提示できるという意味で、空間における新たな情報コミュニケーション手法として評価できる。